

## 令和7年度行政評価《施策評価調書》

|     |                                |     |     |
|-----|--------------------------------|-----|-----|
| テーマ | 5 まちなみと自然が調和し、環境にやさしいまち（環境・景観） |     |     |
| 施策  | 2 循環型社会                        |     |     |
| 所管部 | 生活環境部                          | 関係部 | 水道局 |

## Ⅰ 施策の概要と実施状況

|                   |                                                 |
|-------------------|-------------------------------------------------|
| <p>施策の<br/>目的</p> | <p>環境にやさしい循環型社会の形成を図るとともに、快適な生活環境の確保を目指します。</p> |
|-------------------|-------------------------------------------------|

| 市民アンケート指標の推移             |       |    |       |    |       |    |         |    |          |     |
|--------------------------|-------|----|-------|----|-------|----|---------|----|----------|-----|
| ごみの適正な排出や、3Rを心掛けている市民の割合 |       |    |       |    |       |    | 基準値(R1) |    | 目標値(R10) |     |
|                          |       |    |       |    |       |    | 71.7%   |    | 基準値より増   |     |
| 実績                       | R1    | R2 | R3    | R4 | R5    | R6 | R7      | R8 | R9       | R10 |
|                          | 71.7% | -  | 68.5% | -  | 64.7% | -  | 74.2%   |    |          |     |

[illegible]

[illegible]

## Ⅱ 各部評価（各部による自己評価）

### 施策の進捗

- ・現行事業の取組については、おおむね計画どおりに推進できている。
- ・特に、食品ロス削減推進事業は、北海道の補助金も活用し、毎年小学校や、町内会などにチラシを配布し、廃棄物の適正排出についても、SNSや広報誌を積極的に活用し、広報活動を行っている。
- ・指標「市民一人1日当たりの資源物排出量」は、R6年度指標を達成しているが、新聞書籍等の電子化の影響もあり、新聞を含めた紙の排出量の減少が顕著である。
- ・指標「市民一人1日当たりの生活系ごみ排出量」は、R6年度時点で指標を達成している。市民への広報活動や訪問指導の成果である。

### 効果の発現状況

- ・指標はおおむね目標値を達成しているが、廃棄物の排出状況は、景気動向など世相の影響を大きく受けるので、注視が必要である。
- ・アンケート（ごみの適正な排出や、3Rを心掛けている市民の割合）の結果は、食品ロス対策、広報活動の拡充、指導員による排出指導の結果、基準値より増加している。

### 構成事業の妥当性

- ・アンケート（ごみの適正な排出や、3Rを心掛けている市民の割合）の結果は、基準値より増加している。食品ロス対策やリチウムイオン電池等の適正排出について頻繁に広報活動を実施した結果であり、廃棄物の適正排出は市民の理解も得やすいので、意識啓発のため事業を継続していく必要がある。
- ・路線収集にパッケージ契約を採用し、より効率的な収集体制を確立するとともに、家庭ごみの適正排出指導、北しりべし廃棄物処理広域連合と共同で展開検査を行い収集運搬許可業者や事業者に対する指導などを継続して行ったことで、（２）はR6時点で指標を達成している。現行体制を維持しつつ、更なる排出量削減を目指したい。

### その他（必要に応じて記載）

### 今後の施策改善の方向性

- ・当施策を拡充してきた方向性は妥当と考えられる。
- ・アンケート（ごみの適正な排出や、3Rを心掛けている市民の割合）では、令和7年度時点で74.2%と高い割合を示しているが、今後も市民意識の向上を促す継続した事業の検討を進める。
- ・近年はリチウムイオン電池による発火トラブル、食品ロス削減、製品プラスチックの回収など、廃棄物についての対応や取組が求められており、廃棄物の適正排出や3Rの推進のため、状況把握に努め回収品目拡大等の検討を進める。

## Ⅲ 二役フィードバック

### 各部評価に対する意見等